

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスN e S T		
○保護者評価実施期間	令和8年3月2日		～ 令和3年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和8年3月11日		～ 令和8年3月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の満足度・安心感が非常に高く、安定した通所と意欲的な参加につながっている点	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の特性に応じた個別支援の徹底 ・楽しさと学びを両立した活動(例:体験型・生活スキル活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の意図(療育的効果)の言語化と保護者への共有 ・主体性を引き出すプログラム設計の強化
2	アセスメントに基づく個別支援計画と、それに沿った支援の実施体制が確立されている点	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化されたアセスメントとモニタリング ・支援前後の打合せ・振り返りによるPDCA運用 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の根拠(エビデンス)の明確化 ・専門的視点(SST・感覚統合等)の体系化
3	保護者との情報共有・信頼関係が非常に良好であり、連携体制が機能している点	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドシステムによる情報共有 ・日常的なフィードバックと相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談・助言機会の構造化(定期化) ・保護者の理解促進に向けた説明力強化

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流および社会参加の機会が不足している点	<ul style="list-style-type: none"> ・外部資源との連携機会が限定的 ・活動設計が事業所内で完結しやすい構造 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館・地域イベント等との連携強化 ・社会体験活動(外出・交流)の計画的導入
2	家族支援(保護者交流・ペアレントトレーニング等)が十分でない点	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応中心で、集団的支援の機会が少ない ・体系化された家族支援プログラムの不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会・学習会の定期開催 ・ペアレントトレーニングの導入・研修実施
3	非常時対応や一部取組の「実施状況が伝わりにくい」点	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練やマニュアルは整備されているが、保護者への周知不足 ・情報発信の内容が結果中心でプロセスが見えにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練実施の可視化(報告・写真・共有) ・安全管理体制の定期的な説明機会の設定

保護者等向け 放課後等デイサービス評価表

公表日： 2026年03月31日

事業所名：放課後等デイサービス 放課後等デイサービスNeST

対象人数（保護者）22人 回答者数 11人 回収 50%

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制整備	① こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11						
	② 職員の配置数は適切であると思いますか。	9			2			
	③ 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10				1		
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	10	1					
適切な 支援の 提供	⑤ こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11						
	⑥ 事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10	1					
	⑦ こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	11						
	⑧ 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10				1		
	⑨ 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	1					
	⑩ 事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	1			2	いつも、手作りおやつなどのイベントを計画していただきありがとうございます！	温かいお言葉をいただき、誠にありがとうございます。 おやつ作りなどの活動は、楽しみながら生活スキルや社会性を育む機会として大切にしており、お子様にとって良い経験となるよう職員一同で企画しております。 今後も、楽しさの中に学びのある活動を取り入れながら、お子様が主体的に参加できる機会を提供してまいります。 引き続きどうぞよろしく願いいたします。
	⑪ 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	2	5	3			
保護者 への 説明等	⑫ 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11						
	⑬ 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11						
	⑭ 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提	5	2	2	2			

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	供の機会等が行われていますか。						
	⑮ 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていていると思いますか。	11					
	⑯ 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9		1	1		
	⑰ 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11					
	⑱ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	2	4	4		
	⑲ こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9			2		
	⑳ こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11					
	㉑ 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11					
	㉒ 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11					
非常時等の対応	㉓ 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	1		3		
	㉔ 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	3		3		
	㉕ 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10			1		
	㉖ 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11					
満足度	㉗ こどもは安心感をもって通所していますか。	10	1				
	㉘ こどもは通所を楽しみにしていますか。	11					
	㉙ 事業所の支援に満足していますか。	11					

※1 「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をすることがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2 「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3 「放課後等デイサービス計画（個別支援計画）」は、放課後等デイサービスを利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせ実施されることが想定されています。

※5 「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和8年3月31日

事業所名 放課後等デイサービスNeST

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0		指導訓練室の他、屋外で活動できるスペースを設けており、活動内容を考慮して分担している。今後も児童の人数や活動内容に応じて柔軟に調整し、安全かつ効果的な支援環境の確保に努める。
	2	職員の配置数は適切である	7	0		現状、基準を満たした人員配置を行っている。今後も専門職の確保に向けた採用活動を継続し、より専門性の高い支援体制の構築を目指す。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	7		建物の構造上、完全なバリアフリー化には制約があるため、現状は階段昇降時に職員が付き添い、安全確保を徹底している。玄関前の段差については、児童の状況に応じて動線を調整するなど個別に対応している。今後は手すりの設置や環境面の改善について、実現可能な方法を検討し、より安全な利用環境の整備に努める。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	システムの導入	クラウドシステムや定期的なミーティングにより、職員全体で目標設定と振り返りを行っている。今後も継続してPDCAサイクルを機能させ、支援の質の向上につなげる。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	システムの導入	クラウドシステムを活用し保護者評価を収集している。今後も結果を分析し、具体的な業務改善へと反映させていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	SNS等の活用	自己評価結果はクラウドシステムやホームページ等で公開している。今後も継続し、透明性の高い運営に努める。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	7		現時点では第三者評価は未実施であるが、自己評価や保護者評価をもとに内部改善を進めている。今後は必要に応じて外部の専門職等から助言を受けられる機会を設け、支援の質の向上につなげていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0		定期的に職員研修を実施している。今後も継続し、専門性の向上と共通理解の強化を図る。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0		関係機関や保護者との連携を図りながら適切にアセスメントを行っている。今後も客観的視点を取り入れた計画作成を継続する。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	システムの導入	クラウドシステム内のアセスメントツールを活用している。今後も活用を継続し、評価の質の向上に努める。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0		職員間で児童の状況を共有しながら活動内容を検討している。今後は感覚統合やSST等の視点も取り入れ、個々の発達段階に応じたプログラムをチームで継続的に見直していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0		エビデンスに基づいた活動を意識しながらプログラムの更新を行っている。今後も新しい知見を取り入れ、活動の質の向上に努める。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	0		児童一人ひとりの能力に応じた課題設定を行っている。今後も個別性を重視した支援を継続する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	0		個別活動を中心に、必要に応じて集団活動を組み合わせている。今後もバランスを考慮した支援を行う。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0		支援前に職員間で情報共有を行っている。今後も漏れない情報共有体制を維持する。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0		支援後に振り返りを行い情報共有している。今後も継続し支援の質の向上につなげる。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	システムの導入	クラウドシステムを活用し記録を徹底している。今後も記録の質を高め、検証・改善に活用する。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	システムの導入	モニタリングを定期的実施している。今後も継続し、適切な計画見直しを行う。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7	0		児童の特性や意思に基づいた支援を行っている。今後も多面的な支援を継続する。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0		主に児童発達支援管理責任者が会議に参加している。今後は必要に応じて他職員も参加し、より実態に即した連携を図る。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	0		学校との情報共有や連絡調整を適切に行っている。今後も継続する。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7	0		医療的ケア児の利用は限定的であるが、受入れに備え主治医等との連携体制や緊急時対応の整理を進める。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	0		必要に応じて就学前機関との情報共有を行っている。今後も移行支援の観点から連携を強化する。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	7		現時点で該当事例はないが、将来の進路移行に備え、支援経過の整理と関係機関との連携体制の整備を進める。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0		専門機関との連携を継続している。今後も助言や研修機会を積極的に活用する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	7		現状、交流機会は多くないが、地域資源や社会体験活動を通じて多様な関わりを広げていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	7		協議会等への参加機会を把握し、可能な範囲で積極的に関与していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0		保護者との情報共有を継続して行っている。今後も共通理解の深化に努める。
保護者への説明	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	7		保護者支援の充実に向け、職員研修を通じてペアレント・トレーニングの視点を取り入れ、家庭支援の質向上を図る。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0		契約時に丁寧な説明を行っている。今後も継続する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0		保護者からの相談に適切に対応している。今後も継続する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	7		保護者同士の交流機会は十分ではないため、今後は交流会や学習会等を企画し連携支援を強化する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0		苦情対応体制を整備している。今後も迅速かつ適切な対応を継続する。

責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	システムの導入	クラウドシステムで情報発信を行っている。今後も積極的に活用する。
	35	個人情報に十分注意している	7	0	システムの導入	個人情報管理を徹底している。今後も継続する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	システムの導入	ICTを活用し情報伝達の配慮を行っている。今後も適切な対応を継続する。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	7		地域との交流は限定的であるため、今後は地域行事参加や情報発信を通じて開かれた運営を目指す。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0		各種マニュアルを整備している。今後も定期的に周知・確認を行い実効性を高める。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0		避難訓練を実施している。今後も継続し、振り返りを通して防災体制を強化する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0		虐待防止研修を実施している。今後も継続する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0	7		身体拘束は行わないことを基本とし、必要時の対応手順について職員間で共通理解を図る。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0		食物アレルギーへの対応を徹底している。今後も継続する。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	